

博 修 士 会 会 報

Alumni Bulletin For K.U. Masters and Doctors 2014年7月1日発行

▲正門



ごあいさつ

関西大学博修士会会長 北嶋 弘一

関西大学博修士会は、昭和27年（1952年）に設立されて以来、一昨年創立60周年の記念総会を迎えました。会員の皆様におかれましては、ますますご清祥にて各地ならびに各界においてご活躍のこととお慶び申し上げますとともに、平素より本会の活動に対しまして心温まるご支援をはじめ特別協力金のご寄付など数々のご厚情を賜りまして厚く御礼申し上げます。

平成23年に発生しました東日本大震災の復興が原子力発電所の被害とともに遅々として進まぬ現状に苛立ちを覚えますが、被災されました会員および関係者の皆様には一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。我が国の経済状況は、アベノミクスで円安と株高によって多少明るくなったような兆しを見せておりましたが、それも本年4月の消費増税の実施によってどのような状況になるのか予断を許さないところであります。

関西大学大学院修了生の総数は19,000人に及び、校友会組織の中で大所帯を誇る同窓会として成長してまいりました。現在の関西大学大学院は、法学、文学、経済、商学、社会学、総合情報学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、理工学、外国語教育学、心理学、法務、会計、臨床心理の15研究科に、本年4月より人間健康研究科が新たに加わって16研究科を擁し、博士課程前期課程および同後期課程に専門職学位課程を有する日本有数の大学院に発展、成長しております。

去る3月22日に挙行されました大学院学位記授与式では、602名の修士と93名の専門職を合わせた695名の修了生および39名の博士を本会の新たなメンバーとして迎えるとともに、昨年9月期の学位記授与式では18名の修士と22名の専門職の計40名の修了生および13名の博士を迎えました。また、本年4月2日に行われました大学院入学式では16研究科599名、専門職86名および後期課程68名の計753名のフレッシュな多数の院生を迎え、関西大学の学問および研究の中核として今後益々の母校発展の一翼を担っていただくことを期待いたします。

下記にご案内のとおり、来る7月26日（土）に平成26年度博修士会総会・学術講演会を開催いたします。本年度の総会後の学術講演会では、テレビでも顔馴染みの本学専門職大学院会計研究科の教授である宮本勝浩先生をお招きして、「アベノミクスと関西経済の活性化策」についてご講演をお願いすることになっておりますので、会員の皆様には是非ともご出席いただき宮本先生と親しく懇談していただきたいと存じております。

会員の皆様には、公私にわたり大変ご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、7月26日（土）、関西大学校友・父母会館にて開催の平成26年度博修士会総会・学術講演会ならびに100周年記念会館「紫紺」での懇親会にご出席賜りますよう心よりお待ち申し上げます。

平成26年度 総会・講演会・懇親会のご案内

日時：平成26年7月26日（土） 13:30より受付開始
 場所：関西大学千里山キャンパス 校友・父母会館
 内容：第1部：総会
 14:00～15:30 2階会議室
 第2部：学術講演会
 15:30～16:30 2階会議室
 演題「アベノミクスと関西経済の活性化策」
 講師：宮本勝浩先生（会計専門職大学院・教授）
 第3部：懇親会
 16:40～18:00 レストラン「紫紺」
 総会・懇親会参加者：会員+会員の紹介者に限定
 （事前申込制：郵便振替とする）
 総会・懇親会会費：会員と同伴者は 5,000円、院生会員は無料

お願い：ご出席の方は、7月19日（土）までに、事前に郵便振替でお申し込み下さい。

■郵便振替：00900-2-68733
 関西大学博修士会：
 通信欄に「総会費」など
 ご記入下さい。

■問合せ先：博修士会総務部
 ■電話：06-6368-0810
 ■FAX：06-6388-8785
 総務部 中原 宛

■e-mail：nakahara@kansai-u.ac.jp 会計専門職大学院・教授
 ■はがき：〒564-8680 宮本 勝浩先生
 吹田市山手町3-3-35
 関西大学システム理工学部
 中原 気付 博修士会



会員からのメッセージ

異文化を理解し、世界を理解する



経済学研究科
アンティ・クンナス
(平26修経済)

私は2012年4月に関西大学大学院の経済学研究科に入学しました。フィンランド出身で、大学までフィンランドの学校にしか通ったことはありませんでしたが、日本への留学の希望は高校生の時からありました。大学に入学して、初めて日本への留学ができました。この1年間の留学で身に付けた知識や成長できたことによって、これから勉強したいことが明確になりました。そして、日本で勉強する意欲がより強まりました。フィンランドの大学を卒業してから関西大学の大学院に入学して、日本経済史を専攻科目として勉学に取り組みました。

もともと、ヨーロッパの言語を勉強していました。しかし、高校時代に出会った日本語は今まで勉強してきた言語の中でパズルのように感じました。今まで勉強してきた言語との違いを魅力的に感じ、日本にも興味ができました。また、勉強が進むうちに、日本の社会や文化にも理解を深めていきたいと思うようになりました。学部時代にフィンランドの大学で勉強していた経営学にも日本の会社が良く例として挙げられ、自分自身の専門分野として日本経済の知識を増やしていきたいと思いました。

私自身の履歴を踏まえて、自分の過去、現在と将来を結ぶために、フィンランドと日本にかかわる研究を始めました。両国の首都で1952年と1964年に開催された夏季オリンピックの歴史をもとに、戦後経済への影響について研究しました。自国と日本の意外なつながりを機に、母国の戦後経済事情や留学

先の日本の高度経済成長の理解を深めながら新しい発見ができ、フィンランドと日本の経済発展について修士論文を書き終えました。

興味があったテーマについて論文を書けた一方、日本語で論文を書くことは大きな挑戦に感じました。外国人留学生として言葉の壁は多々ありました。それぞれ色々な観点から言いたいことを考えさせられました。この壁を乗り越えられ、研究を完成させたことは自分への自信になりました。

大学院修了に伴い、大手日本企業に就職することになりました。最初は日本国内で勤務しまして、将来は海外支店での貢献も期待されるでしょう。変動している経済状況の中で、大学院で深めた研究能力や歴史を読む力を活かし、国内外の仕事で先読みができるようになることは、次の挑戦と感じています。

関西大学大学院で勉強したことによって、自分の専攻分野の知識だけではなく、いいことを数多く身に付けることができました。同期の院生との日々のやり取りを通じて、日本経済史以外の経済の分野のことにも触れる機会が多くありました。日本語と日本の文化もより深く理解することができました。私が大学院で勉強していた時に支えて下さった先生方や仲間に対して感謝の気持ちを忘れずに、これからもチャレンジを目指します。

特別協力金納入者名簿 (五十音順、敬称略)

(平成26年3月31日現在)

天井 一夫	網本 浩幸	今村 隆	稲田 秀和	岩井 治夫	緒方 正則	岡本 哲和
小田 耕三	北嶋 弘一	北村 英子	木村 昌司	楠見 晴重	笹倉 淳史	笹邊 将甫
篠塚 義弘	渋谷 大輔	椿 信二	豊田 純爾	西川 俊輔	西崎 義男	中下 寛治
中原 住雄	羽間 弘	日野上輝夫	平野 裕	藤井 収	古澤 満雄	松田 充弘
松本 始	松村 弘	宮下 文彬	明神 信夫	武藤 哲生	山本 善章	横田 伸敬
横山 清美						

タイ国の研究に没頭した2年間



法学研究科
坪田 ひとみ
(平26修法)

私は、関西大学法学部を卒業後、関西大学大学院法学研究科へと進学しました。修士論文のテーマは、卒業論文をもっと深めたものにしようと考えており、大学院の2年間は、卒業論文で研究した「公共支出管理」について、タイを事例として研究しました。

公共支出管理というのは、開発援助において、援助国が「援助が有効に使われているかどうか」という観点から、被援助国の財政をチェックするものです。卒業論文では、「公共支出管理」が、その名前が表す通り「支出」のチェックを中心としており、被援助国が援助なしに自力で成長・発展していくために必要である「収入」の視点が欠如していることについて論じていました。そこから私が、修士論文の事例としてタイを選んだのは、卒業旅行でタイを訪れたことがきっかけです。旅行で何力国か外国を訪れたことはあったのですが、いずれも先進国ばかりで、中進国を訪れるのはタイが初めてでした。バンコクを訪れ、その中心部の活気にまず驚かされましたし、ラヨン県に行く道中の何も無い平地にただただ森林が広がる風景や、ラヨン県の工業地帯に有名な日本の企業がたくさん進出していることにも驚きました。そして、接するタイ人の優しさや穏やかさにとても惹かれました。卒業旅行でタイを訪れた頃には公共支出管理をテーマに卒業論文を書いているところだったため、中進国として援助から卒業し

ようとしているタイに興味がわきました。何より、開発援助という体のいい言葉で、援助国が自国の論理を押し付け、タイがタイらしさを奪ってしまうことになるのがもったいない、と感じました。例えば、タイには「ユーチユイチュイ」という言葉があります。直訳では「ただ、居る」という意味なのですが、本来の意味は「悠々自適」に近く、タイの人の気質をよく表しているようで、好きな言葉なのですが、そんなタイ人が開発援助によってその気質を失ってしまうのではないかと感じました。

そんな思いから、2年間タイについて研究し、指導教授や友人に支えられながら、修士論文を書き上げました。指導教授には特にお世話になり、就職活動等で研究の足取りもおぼつかない私と、二人三脚で一緒に悩んでくださりました。飛ぶ様に過ぎていった2年間でしたが、皆さんに支えられ、総代として胸を張って修了することができました。

修了してから、19回目のクーデターがタイで起こり、新聞やニュースでタイを見ることが増えてきており、ニュースのコメント等で非難を受けていることもあったりで、複雑な気持ちですが、「クーデターが起きても街中は平穏で、日常が続いている不思議な国」を理解するのに、私の論文が少しでも役に立てればいいなと思いますし、仕事を通して、大学院で学んだことを活かして、これからもタイに関わっていければいいなと思っています。

博修会からのお願い

特別協力金のご協力をいただきました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。会の財政が逼迫しておりますので、本年度も引き続きご協力をお願いいたします。1口1,000円、できれば2口以上お願いいたします。また終身会費15,000円を未納の方は、納入をお願いいたします。

郵便振替 00900-2-68733 関西大学博修会

関西大学図書館開設100周年を迎えて

—新しい図書館のあり方「不易」と「流行」と—



図書館館長
内田 慶市

2014年度、関西大学図書館は開設100年という大きな節目を迎えている。

蔵書数220万冊、年間利用数は80万人に上り、大学図書館として日本のトップクラスに位置するが、とりわけ東アジア関係書籍の所蔵においては、内藤文庫、増田文庫、泊園文庫、長澤文庫等々のまさに世界に誇るべき個人文庫コレクションを有しており、この分野の研究者の垂涎的となっている。

ただこうした日本でも希有の素晴らしい大学図書館ではあるが、一方でまた多くの課題も山積している。その幾つかを示せば、以下のようなものが挙げられるだろう。

1. 文科省などからも求められている「コモンズ」に代表される図書館の新しい機能の付加
2. 紙媒体からデジタル化・アーカイブス化
3. 書庫の狭隘化への対応
4. 電子ジャーナル・データベース経費の肥大化への対策
5. 貴重書、コレクション等の取り扱い方

1は、もちろんコモンズが必ずしも図書館になればならないというものではないのだが、図書館が「知識の保管場所」という点を利用した学生の主体的な学びの場の確保、あるいは学習支援という観点から本学においても積極的に推進すべきものだと考えている。

2については、これまで本学ではほとんど行われてこなかったものであり、CSAC(アジア文化研究センター)などとも連携しながら本格的に始めて行くべきであろう。

3と4は、恐らくは他の大学図書館でも同じ状況であり、一つの大学だけで解決できる問題では

なくなってきている。つまりは、香港の8大学で計画されているような「大学間共同書庫」「共同利用」を考える時期に来ている。ドイツ国家図書館によるCrossAsiaの事例なども学ぶべきである。

5に関しては、これは実はこれまで機会がある毎に触れてきたことである(例えば「秘蔵は死蔵なり—図書館と文献公開のあり方」『東方』360号,2011.2)が、東アジアの図書館に共通する「秘蔵」の発想を転換すべきだという基本的な考え方によるものである。欧米の図書館でのRarebookの扱いを見習うべきである。

私は研究の関係からこの20年ほど毎年夏休みを利用して欧米の図書館での資料調査を行っている。そこで感じるのは、「荘厳さ」と「利便性」である。毎年訪れるローマのカサナテンセ図書館や大英図書館、フランス国立図書館などはその歴史からも「荘厳」そのものである。しかし他方、欧米の多くの大学図書館ではコモンズやカフェが当たり前のように設置されていて多くの学生達が熱心に議論したり研究をしたりしている。ところが、この国ではともすれば「コモンズなど作ったら図書館本来の静粛さが失われる」などといった意見が真顔で述べられたりする(一度でも実際にコモンズを見ればそういった不安は払拭されるはずなのだが)。もちろん、古典的図書館の「不易」の部分は当然維持されなければならないが、一方で「流行」=「変革」も必要なのである。つまりは、「あれかこれか」ではなくて、「あれもこれも」であるべきなのだ。

実はこういった「あれもこれも」という発想は図書館のあるべき姿のみならず、あらゆる面で必要である。この世の多くの諍いは「あれかこれか」という二者択一、あるいは「自分だけが正義」という考え方に由来している。これに対抗する手段はたった一つ、それは「あれもこれも」すなわち「みんなちがって、みんないい」(金子みすゞ)でしかないと私は考えている。

大学院ニュース

Graduate School News



人間健康研究科の開設

人間健康研究科長 狭間香代子

2010年4月に開設された関西大学人間健康学部は完成年度を終えて、新たに人間健康研究科(修士課程)を2014年4月にスタートいたしました。

本研究科は、学部の理念や教育研究目標を受け継ぐとともに、一層の教育研究の充実を図り、高度専門職者や研究者の育成を目指しています。

わが国では、少子高齢化の進行が著しく、医療や介護、福祉に関する様々な課題が山積しています。このような現状の中で、人びとがいかに健康的な生活を維持していくかが、大きな課題となっています。従来のように健康を損なう問題が生じた後に、なんらかの対処をするという事後的、受動的な対応から、予防的かつ積極的な対応へと政策的にも、また国民の意識も変化しています。

このような社会的背景のもとに、本研究科では、身体活動やスポーツを通して人間の健康や幸福を促進するとともに、地域福祉活動との融合を追究し、私たちの健康(health)で健幸(well-being)な生活について考えます。

中央教育審議会は「我が国の高等教育の将来像」(平成17年)において、大学の7つの機能を挙げています。本研究科では、これらの機能の中から、特に高度専門職業人養成、専門的分野の教育・研究、社会貢献機能の3つの機能に比重を置いて、教育研究の推進に取り組みます。

この視点は具体的には人材養成像として示されます。第1には高度専門職者の養成です。スポーツを通して健康増進に貢献できる健康運動指導者や体育スポーツ指導者を育成します。特に後者に

おいては、専修免許の取得を通して、現代社会で求められる倫理感に基づいて、体罰に頼らずに生徒を指導できる保健体育教員の養成を目指しています。また、超高齢社会に対応するために、地域を基盤にした健康福祉支援事業の構築と実践を推進できる専門的知識と技術をもったソーシャルワーカーを育成します。

第2には、地域に貢献できる人材の輩出です。近年、多くの自治体で「総合型地域スポーツクラブ」が設置されています。このような場で市民の健康づくり支援とコミュニティ創りに貢献できる指導者の養成を目指します。

第3は、学際的かつ実践的な視野をもった研究者の育成です。人が幸福で豊かな生活を維持するための健康づくりに関して、人間の健康に関する基礎理論の探究と応用研究を行い、学際的な視点から研究成果を発信できる研究者が求められています。このために、本研究科では高い学術的水準をもち、さらに実践感覚を修得した研究者の輩出を目標とします。

加えて、既設の人間健康学部が築き上げてきている教育研究の成果をさらに発展させるとともに、学部の重要な役割である堺市との地域連携事業を充実させることが、本研究科にとっても重要な役割です。

大学院生を単に研究室に止めるのではなく、積極的に地域の様々なフィールド活動に参加できるようにすることで、高度な専門的知識と実践力を併せ持つ人材の輩出を目指します。

総会議案書

〈第1号議案書〉

平成25年度事業報告

平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで

[1] 総会に関する事項

☆平成25年度 総会・学術講演会・懇親会

開催日時：平成25年8月3日(土) 13:30～

開催場所：関西大学 校友・父母会館

来賓：寺内俊太郎 校友会会長

成岡昭二 校友会事務局次長

◇第1部 総会(議事)：2階会議室

(1) 平成24年度事業報告

(2) 平成24年度収支決算および監査報告

(3) 平成25年度一般会計収支予算案

◇第2部 学術講演会：2階会議室

演題：『これからの社会に不可欠な蓄電技術とは！』

講師：化学生命工学部教授、先端科学技術推進機構長

石川正司 先生

◇第3部 懇親会 2階会議室

[2] 役員会に関する事項

◇理事会

●平成25年4月2日(火) 18:00～

関西大学100周年記念会館 レストラン紫紺「桃源」

(総会・学術講演会・会報発行計画・決算・予算の件、その他)

◇常任理事会

●平成26年3月1日(金) 12:00～

関西大学100周年記念会館 レストラン紫紺

(修士記授与式、入会案内・入会受付手続き・記念写真撮影に関する件、平成26年度総会・学術講演会・会報発行計画等)

◇その他

(1) 平成25年4月2日(火)

●大学院入学式に出席(千里山中央体育館)(会長コーナ)
学生会員への勧誘資料配布(総務部・広報部・財務部)

(2) 平成25年4月7日(日)

●2013スプリングフェスティバル(千里山キャンパス)に参加(会長コーナ)

(3) 平成25年6月8日(土)

●校友会第101回定時代議員会(関西大学第2学舎BIGホール100)に出席(会長コーナ・総務部)

(4) 平成25年7月1日(月)

●「会報2013年号」を編集・発行(広報部)

(5) 平成25年7月13日(土)

●全国組織代表者会議(関西大学100周年記念会館)に出席(会長コーナ・総務部)

(6) 平成25年10月20日(日)

●平成25年度校友会総会(関西大学100周年記念会館)に出席(全部署)

(7) 平成26年1月15日(水)

●校友会新年互礼会(大阪新阪急ホテル)に出席(会長コーナ)

(8) 平成26年3月22日(土)

●学位記及び博士課程後期課程単位修得証書授与式(関西大学BIGホール100)に出席(会長コーナ)

●新会員の入会勧誘資料配布(総務部・渉外部・財務部・広報部・事業部)

●記念写真撮影(渉外部・事業部・総務部)

(9) 平成26年3月29日(土)

●校友会第102回定時代議員会(関西大学100周年記念会館)に出席(会長コーナ・総務部)

〈第2号議案書〉

平成25年度収支決算報告書

一般会計収支決算書

自 平成25年4月1日

至 平成26年3月31日

(収入の部)

(単位:円)

項目	予算額	実行額	差引差額
経常収入	1,101,000	593,193	507,807
1. 会費収入	420,000	252,000	168,000
① 正会員入会金収入	60,000	0	60,000
② 院生会員入会金収入	360,000	252,000	108,000
2. 事業収入	330,000	90,000	240,000
① 総会会費収入	300,000	90,000	210,000
② 広告料収入	30,000	0	30,000
3. 雑収入等	351,000	251,193	99,807
① 雑収入	50,000	22,000	28,000
② 特別協力金収入	300,000	229,000	71,000
③ 受取利息	1,000	193	807
前期繰越金	1,664,019	1,664,019	0
合計	2,765,019	2,257,212	507,807

(支出の部)

(単位:円)

項目	予算額	実行額	差引差額
経常支出	1,083,000	761,881	321,119
1. 一般管理費	223,000	126,383	96,617
① 通信費	60,000	26,245	33,755
② 事務用消耗品費	100,000	7,286	92,714
③ 支払手数料	13,000	7,660	5,340
④ 雑費	50,000	85,192	▲ 35,192
2. 会議費	370,000	174,120	195,880
① 総会費	300,000	144,000	156,000
② 諸会議費	70,000	30,120	39,880
3. 事業費	490,000	461,378	28,622
① 印刷費	350,000	415,978	▲ 65,978
② 修士記授与記念写真費	100,000	45,400	54,600
③ 記念品費	40,000	0	40,000
予備支出	30,000	0	30,000
予備費	30,000	0	30,000
当期支出合計	1,113,000	761,881	351,119
次期繰越金	1,652,019	1,495,331	156,688
合計	2,765,019	2,257,212	507,807

総会議案書

特別会計収支決算書

奨学金特別基金

自 平成25年4月1日

至 平成26年3月31日

(単位：円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	1,204,342	次期繰越金	1,204,538
受取利息	196		
合計	1,204,538	合計	1,204,538

名簿特別勘定

自 平成25年4月1日

至 平成26年3月31日

(単位：円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	853,137	次期繰越金	853,276
一般会計より入金	0		
受取利息	139		
合計	853,276	合計	853,276

財産目録

平成26年3月31日現在

(資産の部)

(単位：円)

科目	摘要	金額
普通預金	一般会計収支(りそな/難波)	1,079,473
振替貯金	一般会計収支(ゆうちょ/大阪事務センター)	342,310
通常貯金	一般会計収支(ゆうちょ/大阪事務センター)	78,548
小計		1,500,331
普通預金	特別会計 奨学金特別基金用(りそな/難波)	1,204,538
普通預金	特別会計 名簿特別勘定用(りそな/難波)	853,276
合計		3,558,145

(負債及び正味財産の部)

(単位：円)

科目	摘要	金額
預り金		5,000
正味財産	次期繰越金	3,553,145
合計		3,558,145

監査報告書

関西大学博修士会
会長 北嶋 弘一殿

私たちは、平成25年4月1日から平成26年3月31日に至る一般会計収支決算書、奨学金特別基金および名簿特別勘定の特別会計収支決算書、ならびに財産目録について監査を実施いたしました。監査の結果、上記決算書類は、適正なものであることを認めます。

平成26年5月1日

監事 澤 勲 
監事 竿 田 嗣 夫 
監事 水 野 一 郎 

〈第3号議案書〉

平成26年度一般会計収支予算(案)

自 平成26年4月1日

至 平成27年3月31日

(収入の部)

(単位：円)

項目	26年度予算	摘要
経常収入	1,001,000	
1. 会費収入	420,000	
① 正会員入会金収入	60,000	正会員入会見込 15,000円×4人
② 院生会員入会金収入	360,000	院生会員入会見込 12,000円×30人
2. 事業収入	230,000	
① 総会会費収入	200,000	総会出席見込 5,000円×40人
② 広告料収入	30,000	広告掲載見込 10,000円×3件
3. 雑収入等	351,000	
① 雑収入	50,000	お土産料、記念写真代他
② 特別協力金収入	300,000	
③ 受取利息	1,000	預金利息等
前期繰越金	1,495,331	
合計	2,496,331	

(支出の部)

(単位：円)

項目	25年度予算	摘要
経常支出	1,233,000	
1. 一般管理費	273,000	
① 通信費	60,000	総会、役員会案内発送費
② 事務用消耗品費	100,000	文房具、事務用品費
③ 支払手数料	13,000	振込、振替送金手数料
④ 雑費	100,000	
2. 会議費	370,000	
① 総会費	300,000	懇親会費
② 諸会議費	70,000	役員会会議費等
3. 事業費	590,000	
① 印刷費	450,000	会報、総会案内状印刷費
② 修士記授与記念写真費	100,000	
③ 記念品費	40,000	
予備支出	30,000	
予備費	30,000	
当期支出合計	1,263,000	
次期繰越金	1,233,331	
合計	2,496,331	

* 予備費の支出は、役員会の承認を得るものとする。

〈第4号議案書〉

役員改選

平成25年度 第61回博修士会 総会・学術講演会



平成25年度の博修士会総会は関西大学校友・父母会館で、寺内俊太郎校友会会長、成岡昭二校友会事務局次長を来賓に迎え、8月3日（土）13時半から開催された。

総会は黙祷と学歌斉唱を行った後、寺内校友会会長の熱のこもった挨拶を頂いて始まった。議事は北嶋弘一会長と宮下文彬会長代理の議長団により進められ、平成24年度事業報告と収支決算報告を承認し、平成25年度予算（案）も全員一致で承認した。

続く学術講演会では、

関西大学先端科学技術推進機構長で化学生命工学部の石川正司教授から「これからの社会に不可欠な蓄電技術とは」と題して、最近のエネルギー政策を踏まえた蓄電技術の現状と将来展望などについて、御講演を頂いた。本講演では、19世紀のイタリアやフラン



石川正司 教授

スで始まった電池の開発は、20世紀に入って新提案の空白期があったこと、1990年代から蓄電池の開発では日本が技術面でリードしていること、再生可能エネルギーの有効活用と電気需要の平準化のために蓄電技術が有効であることなどについて分かりやすく説明して頂いた。石川先生からは、高速大容量で充電と放電が可能な「キャパシタ」など高性能な「蓄電材料」の研究開発を目指しており、安全面では妥協しないとの心意気が披露された。

講演後に開催した懇親会は、博修士会1期生藤井昭三氏、2期生有福健氏の元気な姿を拜見し、和やかな宴を過ごすことができた。最後に藤井昭三氏から博修士会に対する期待の言葉があり、お開きとした。

（博修士会 広報部）

695名の新修士の誕生 753名の新入生を迎える



平成26年度大学院入学式

平成25年度関西大学大学院学位記（修士・専門職）授与式は3月22日に千里山キャンパスのBIGホール100で行われた。本年度の前期課程では修士の学位被授与者は602名、専門職大学院学位被授与者は93名、合計695名であった。また、博士課程後期課程単位取得者は29名、修了者は39名、合計68名であった。当日の会場は、修了生とご家族で2階席まで満員であった。

高度な技術と知識を身につけ、真理の探究に日夜研鑽してきた修了生に対して、楠見晴重学長は、今日の地球規模の課題に対し、文化の異なる国の人々が互いを尊重し、違いを乗り越えて協力することにより、初めて解決のプロセスが見えてくること、そのためには若い人々の行動力と本学大学院で学んだチャレンジ精神が必要であると激励した。

平成26年度大学院入学式は4月2日に千里山中央体育館で行われた。本年度春学期の入学者は博士課程前期課程ならびに修士過程599名、博士課程後期課程68名、専門職大学院86名、合計753名であった。

新入生に対して、楠見学長は、自分の研究が世界的な視野に立ってどのような位置にあるのか、どこが独創的なのかなど、常に世界を見据えたうえで国際的に通用する成果を挙げることを目標とし、そのためには、国内外の論文に接し、多くの人々と交わり人的なネットワークを構築するなど、地道な積み重ねが必要であること、失敗を恐れず、常に挑戦する気持ちを持って積極的に取り組み、グローバルに活躍して頂きたいとの希望を表明した。

（博修士会 広報部）

お知らせ!

ホームページも見て下さい!

<http://www2.ocn.ne.jp/~kandaimd/>

2014年

発行人 北嶋 弘一 / 編集人 北川 勝彦

発行所 関西大学博修士会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 関西大学大学院内